

# 鳥根の記憶

㊦

へうれし、めでたの若松さま  
まよ  
枝も栄える 葉も茂る……  
カセットデッキから、高音

の伸びやかな朗々とした歌声  
が響いてきた。山形の民謡「花  
笠音頭」とは節と歌詞が異なる。  
所々で「そーれ」とかけ  
声が入り、「チヨウサヤ、チ  
ヨウサヤ」とのおほやしで締  
めくくる。松江市北堀町三  
区鑿宮保存会が、毎年十一  
月三日に参加する松江の鑿行  
列で、出発時と最後に披露  
する祝い歌だ。

声の主は藤井孝義さん  
(69)。四十年前に分家して同  
市春日町へ移るまで北堀に住  
み、幼いころから父が歌うの  
を聞いて覚えた。兄の石工、  
賢さん(83)は声が低く、歌う  
のは専ら、父の声音を受け継  
いだ自分だった。

元々は、左義長行事で太鼓  
をたたいて慰める歳徳神の宮  
を担いで練り歩く「宮練り(行  
列)」の際に歌われた。鑿の  
ルートがここにあるため、現  
代の鑿行列に名残をとどめる  
が、宮練りは、皇室の慶事や

その1

## 松江の鑿

1928年(昭和3年)、昭和天皇御大典を祝い、鑿と宮の  
行列が出た—若松秀俊・東京医科歯科大大学院教授提供



市制施行記念など限られた場  
合にしか行われない。  
「このままでは歌い方を忘  
れてしまう。皆で覚え、後世  
に伝えよう」と思い立ったの  
が、同保存会幹事長で市鑿行  
と、北堀町三区では男たちが

列保存会副会長の石原幸雄さ  
ん(54)らだった。一九九九年  
春、孝義さんの歌を録音した  
カセットテープを地区の約五  
十人に渡し聞いてもらった。  
鑿行列ではそれまで孝義さん  
一人が歌っていたが、市制百  
十周年記念の宮練りも出たそ  
の年秋から全員が歌えるよう  
になった。

今年も行列後の歌が終わる  
と、北堀町三区では男たちが

太鼓を庫にしまい、女たちは  
直会の準備を整え、世代を超  
えてわがわが合った。石原さ  
んは、「代々引き継いできた  
祭りを通じて、地域に連帯感  
が生まれる。この、かけがえ  
のなさを守りたい」と話して  
いる。



# 祝い歌 地域にきずな

11月3日に行わ  
れた今年の鑿行  
列の一場面